

二七秀 ひげ 海理醫學、醫學博士。嘉永元年十一月十七日江戸本所録町生れ、昭和十二年二月十六日没（八四—一九一六）。幼名復一。蘭方醫學長齋の子。杉竹外ハ漢籍を、川島文成ハ蘭書を學ぶ。次ハ野島秋帆、手塚洋藏ハ賦き漢蘭英學を、父の下ハ醫學を修めた。又ハ二年遣歐使節ハ同行してフランス入ル赴ク。歸朝後横濱ハ英語を學び、傍ウハボン等ハ親父として動物學、解剖を修む。慶應二年加賀の金澤藩壯術館ハ出任して英書の翻譯ハ從事、また政達館ハ英語、算術を教授。明治二年大學出仕、翌年文部大助教、次ハ文部少助教、東京醫學學校校長心得、十四年東京大學教授兼醫學部長、十九年帝國大學醫科大學教授兼學長。この間歐米出張數度。二十年最初の醫史學講義、翌年學位令ハより最初の醫學博士。帝國學士院會員、貴族院議員、錦鶏副祇候。妻ハ佐藤向中の娘より、精神酒學者ニ宅鑽（はそ）の嗣子。

著書ハ「衛生と長壽法」（昭和四年四月）、「二十五百啓明會藏版、富山房」等。富士川游「三宅秀先生の傳」（「醫史叢談」昭和十七年十二月）、「白書物展望社所收」がある。

